

137名が鉄筋組立作業を体験

修成建設専門学校で出前講座

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は10月12日、大阪市西淀川区の修成建設専門学校で「出前講座」を開催し、建築学科をはじめ建築CGデザイン学科、空間デザイン学科、専科の学生ら137名が参加しました。

午前2回と午後2回に分けて行われた講座では、冒頭で岩田理事長が挨拶し「皆さんは設計関係の道に進む方が多いと聞いていますが、複雑な設計は現場でのミスや生産性の低下につながることもあります。きょうは平面図がどのように組み立てられていくかを体験し、今後の経験に生かしてください」と述べました。この後、田中勲副理事長らにより注意事項が説明された後、1時限目は建築CGデザイン学科の学生ら約30名が4班に分かれ、2級検定の実技試験の課題に挑戦し約1時間の結束作業を体験。第一線で活躍する職人から手ほどきを受けながら、慣れない手つきでハッカーを使って結束作業に取り組んでいました。また、学生たちは順番に圧接作業の実演も見学し、鉄筋が高温で接合される様子に目を見張っていました。さらに、午後の最後の講座では職人2名と学生10名による組立競争が行われ、プロの職人のスピードと技術を実感しました。

今回の出前講座は組合として今年4校目となるもので、専門学校での開催は初めてとなります。また、当日は若年者の人材育成を担当する大阪労働局職業安定部の関係者も見学に訪れました。

組合から講師として学生の指導に当たったのは岩田理事長、田中副理事長に加え、次のメンバーです。（敬称略）

・鎌田厚（鎌田鉄筋工業）、又野吉史（又野鋼業）、富田勇（富田興業）、辻本浩二（辻本鉄筋工業）、今村俊郎（吉岡工業）、山村修一（関西スチールフォーム）、各会員企業からの職人7名。このほか、関西圧接業協同組合（濱野功理事長）、中山鋼業の関係者からも協力、応援をいただきました。

